



二輪草だより

平成29年9月号
発行:二輪草センター

センターの活動予定

- ◆10月17日 二輪草センター10周年記念セミナー開催
- ◆10月下旬 二輪草プラン推進委員会議 二輪草だより10月号発行

「医学概論3 ワークライフバランスを考えよう」終了報告

二輪草副センター長 安孫子 亜津子

平成29年 8月21日に、医学科3年生を対象に「ワークライフバランスを考えよう」の講義および実習を行いました。今年も夏休み明けの第1日目を熱く議論し、将来をシミュレーションする日としてもらいました。

最初に教育センターの蒔田先生から開催のご挨拶をいただき、その後、二輪草センター菅野先生からの医師のワークライフバランスと二輪草センターについての講義していただきました。家電3種の神器の大切さは、学生さん達には印象的であったようです。

「グループ討論」では、13グループに分かれて、4つのケースに関して、キャリアプラン、問題点、サポート方法などを議論してもらい、討論内容は各グループの代表者から発表してもらいました。自らのキャリアアップのみではなく、パートナーのキャリアも考慮することや、育児、親の介護など人生における家族の変化に対応することの難しさを知り、互いに相談することの大切さや、使える制度を知っておくことの重要さなどを学んでもらいました。

「先輩医師のワークライフ体験談」では、3人の先生からのお話を聞きました。膠原病内科の高取先生からは、研修医時代の忙しさ、同僚との結婚、育児の体験などをユーモアいっぱいにお話しいただきました。時には仕事よりも大変である育児の体験談は学生さん達に刺激的であったようです。麻酔科の神田先生は、診療、研究、そしてアメリカ留学とキャリアを積み、さらにアメリカで出産されたお話をしてくださいました。仕事と家事と育児それぞれ1/3ずつで一人前、やりたいことにチャレンジする楽しさを教えていただきました。また今回は手稲溪仁会病院からConstantine先生にお越しいただき、特別講義をしていただきました。力強い英語で、日本と海外の医師の仕事に対する意識や社会的立場の違いを教えてください、日本の女性医師が更に活躍するための勇気をもらえたことと思います。

最後に二輪草センター長の山本先生から、4つの傾向診断を用いて自分を客観的に分析し、今後役に立てる方法を教えてもらいました。この講義をきっかけに、キャリアプランを考え、ワークライフバランスを充実させることのできる学生さんが増えることを期待します。



今年もグループ討論ではたくさんの先生方にタスクフォースとしてお手伝いしていただきました。青木先生(免疫病理)、河端先生(第1内科)、菅野先生(二輪草)、岸部先生(耳鼻咽喉科)、木ノ内先生(眼科)、佐藤先生(教育センター)、高橋先生(小児科)、堀先生(皮膚科)、蒔田先生(教育センター)、山本先生(二輪草)、山本先生(腫瘍病理)、横浜先生(産婦人科)、

吉田先生(解剖)(五十音順、敬称略)、お忙しいところご協力いただきましたことを深謝いたします。

【お問い合わせ先】

旭川医科大学 二輪草センター(復職・子育て・介護支援センター)
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1
TEL 0166-69-3240(内線3240) サンニンヨレ FAX 0166-69-3249
開設時間8時30分～17時15分 E-mail: nirinsou@asahikawa-med.ac.jp
ホームページ <http://www.asahikawa-med.ac.jp/hospital/nirinsou/>



二輪草センター10周年記念セミナー開催のお知らせ

日時:平成29年10月17日(火)17:30～19:30

場所:臨床第3講義室 対象:全職員・学生

講師:米村 紀美氏

(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 シニアコンサルタント)

演題:『働きがいのある職場づくり』

～これからの二輪草センターに求められること～

※各部署に申込書を配布しています。10月2日までに提出をお願いいたします。



「訪問看護ステーション看護師のための生涯学習支援研修」終了報告

看護職キャリア支援 職場適応支援担当
菊地美登里・尾形千悦

この研修は今年5回目を迎え、訪問看護に必要な知識・技術の再習得を支援し、研修を通して大学病院と訪問看護ステーションの交流を図ることを目的に行っています。今年度は、8月25日(金)・28日(月)の2日間の日程で、旭川市内や近郊の18施設から延べ55名、院内からも16名の聴講がありました。

1日目は、『家族とともに行うユマニチュード』について、認知症看護認定看護師 内山寛美さんの講義でした。ユマニチュードとは、フランスのイブ・ジネストさんらが発案した認知症ケアの全人的な技法です。認知症高齢者を一人の人として尊重するための4つの基本技術として「見る、話す、触れる、立つ」ことを中心にお話しいただきました。講義の中で、イブ・ジネストさんが平成26年に来日した際に放送された動画が紹介され、患者さんの劇的な変化を目の当たりにしました。ケアを受ける人が穏やかになり、介護をする側も満足感を得られる可能性がある技術ということでした。アンケートでは、「接し方で信頼感を得られることが分り、もっと深く学びたいと思った」「尊厳を念頭に看護してきたが反省する面が多くあった」といった感想が聞かれました。



2日目は、『自宅でできる呼吸リハビリテーション』について、理学療法士の勝海孝臣さんにお話しいただきました。呼吸リハビリテーションをすすめるために、呼吸の解剖生理、原因となる疾患の理解を深め、具体的なアプローチ方法として、自宅でも行える腹式呼吸、口すぼめ呼吸から、ADLや筋力トレーニングの方法・根拠や注意点をわかりやすく示していただきました。大事なのは、呼吸リハビリで何を指すのかを明確にし、無理をせず長く続けるということでした。アンケートでは、「日常生活上の注意点など具体的に知ることができた」「目的を利用者さんとともに明確にして指導していきたい」といった感想が聞かれました。また、「肺理学療法など排痰を促す技術の演習」の希望もあり、今後もニーズの高いテーマでした。



今後も地域医療の発展に寄与できるよう、共に看護を継続し、実践力を高める研修となるように検討したいと考えています。

病児一時預かり室、バックアップナース、病児・病後児保育室、カウンセリング相談 【8月20日～9月19日までの利用状況】

病児一時預かり室	依頼回数	0回	利用回数	0回
バックアップナース	依頼回数	10回	稼働回数	10回
病児・病後児保育室	依頼回数	14回	利用回数	14回
カウンセリング相談			利用回数	6回

* 病児一時預かり室、病児・病後児保育室は全職員・学生がご利用になれます